

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成29年 5月30日

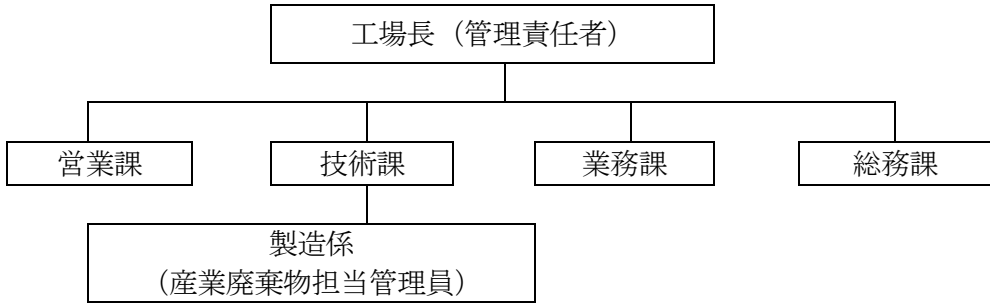
都道府県知事
(市長) 三日月 大造 殿

提出者

住 所 滋賀県守山市川田町1794番地
氏 名 田中生コン株式会社
代表取締役 田中 昭太
電話番号 077-583-4718

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	田中生コン株式会社
事業場の所在地	滋賀県守山市川田町1794番地
計画期間	1年(平成29年4月1日から平成30年3月31日)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	生コンクリート製造業 [2122]
②事業の規模	年間生産量 約4万m ³
③従業員数	38名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項															
<p>(管理体制図)</p>  <pre> graph TD A[工場長 (管理責任者)] --> B[営業課] A --> C[技術課] A --> D[業務課] A --> E[総務課] C --> F[製造係 (産業廃棄物担当管理員)] </pre>															
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項															
① 現状	【前年度（平成28年度）実績】														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>産業廃棄物の種類</th> <th>ガラスくず、 コンクリートくず及び 陶磁器くず</th> <th>汚泥</th> <th>分離槽汚泥</th> <th>廃プラスチック類</th> <th>木くず</th> <th>金属くず</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>排出量</td> <td>3,870.00 t</td> <td>2,160 t</td> <td>0.66 t</td> <td>2.10 t</td> <td>0 t</td> <td>3.96 t</td> </tr> </tbody> </table>	産業廃棄物の種類	ガラスくず、 コンクリートくず及び 陶磁器くず	汚泥	分離槽汚泥	廃プラスチック類	木くず	金属くず	排出量	3,870.00 t	2,160 t	0.66 t	2.10 t	0 t	3.96 t
	産業廃棄物の種類	ガラスくず、 コンクリートくず及び 陶磁器くず	汚泥	分離槽汚泥	廃プラスチック類	木くず	金属くず								
	排出量	3,870.00 t	2,160 t	0.66 t	2.10 t	0 t	3.96 t								
(これまでに実施した取組)															
・ 製造設備の水洗い回数・時間等の見直しによる、汚泥量減少															
② 計画	【目標】														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>産業廃棄物の種類</th> <th>ガラスくず、 コンクリートくず及び 陶磁器くず</th> <th>汚泥</th> <th>分離槽汚泥</th> <th>廃プラスチック類</th> <th>木くず</th> <th>金属くず</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>排出量</td> <td>4,500 t</td> <td>3,000 t</td> <td>1 t</td> <td>1 t</td> <td>1 t</td> <td>1 t</td> </tr> </tbody> </table>	産業廃棄物の種類	ガラスくず、 コンクリートくず及び 陶磁器くず	汚泥	分離槽汚泥	廃プラスチック類	木くず	金属くず	排出量	4,500 t	3,000 t	1 t	1 t	1 t	1 t
	産業廃棄物の種類	ガラスくず、 コンクリートくず及び 陶磁器くず	汚泥	分離槽汚泥	廃プラスチック類	木くず	金属くず								
	排出量	4,500 t	3,000 t	1 t	1 t	1 t	1 t								
(今後実施する予定の取組)															
・ 現状を継続															
産業廃棄物の分別に関する事項															
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類、木くず、金属くずの分別集積場設置														
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状を継続														

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項							
① 現状	【前年度（平成28年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	ガラスくず、 コンクリート くず及び 陶磁器くず	汚泥	分離槽 汚泥	廃プラスチック類	木くず	金属 くず
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 該当なし						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	ガラスくず、 コンクリート くず及び 陶磁器くず	汚泥	分離槽 汚泥	廃プラスチック類	木くず	金属 くず
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 該当なし						
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項							
① 現状	【前年度（平成28年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	ガラスくず、 コンクリート くず及び 陶磁器くず	汚泥	分離槽 汚泥	廃プラスチック類	木くず	金属 くず
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	2,000 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 脱水機によって汚泥をセメントと水に分離						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	ガラスくず、 コンクリート くず及び 陶磁器くず	汚泥	分離槽 汚泥	廃プラスチック類	木くず	金属 くず
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	0 t	2,820 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 現状を継続						

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（平成28年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	ガラスくず、 コンクリート くず及び 陶磁器くず	汚泥	分離槽 汚泥	廃プラス チック類	木くず	金属 くず
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 該当なし						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	ガラスくず、 コンクリート くず及び 陶磁器くず	汚泥	分離槽 汚泥	廃プラス チック類	木くず	金属 くず
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 該当なし						

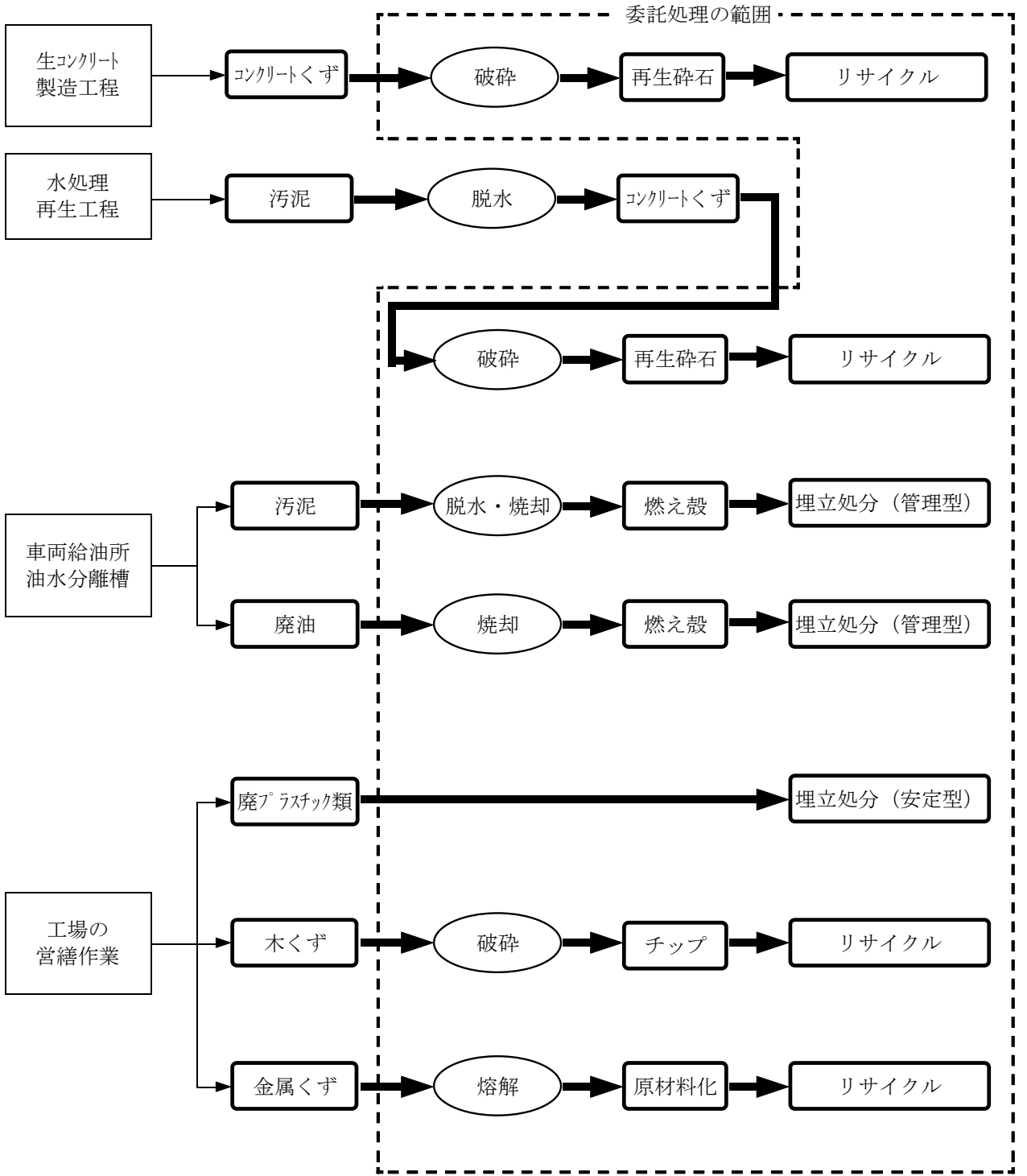
産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（平成28年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	ガラスくず、 コンクリート くず及び 陶磁器くず	汚泥	分離槽 汚泥	廃プラス チック類	木くず	金属 くず
	全処理委託量	3,870.00t	160t	0.66t	2.10t	0t	3.96t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.00t	0t	0.66t	0t	0t	0t
	再生利用業者への 処理委託量	3,870.00t	160t	0t	2.10t	0t	3.96t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0.00t	0t	0t	0t	0t	0t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.00t	0t	0t	0t	0t	0t
※ 汚泥は自社中間処理後の残渣の量を示す (これまでに実施した取組)							

②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	ガラスくず、 コンクリート くず及び 陶磁器くず	汚泥	分離槽 汚泥	廃プラス チック類	木くず	金属 くず
	全処理委託量	4,500t	180t	1t	1t	1t	1t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.00t	0t	1t	0t	0t	0t
	再生利用業者への 処理委託量	4,500t	180t	0t	1t	1t	1t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0.00t	0t	0t	0t	0t	0t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.00t	0t	0t	0t	0t	0t
※ 汚泥は自社中間処理後の残渣の量を示す (今後実施する予定の取組)							
※事務処理欄							

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



別紙 産業廃棄物の一連の処理の工程